

Frente vol.28

フレンテ フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

2007.1

特集

Report 講演会・鼎談からピックアップ!

男女共同参画フォーラム ～みえの男女2006～

Challenge

鳥羽・若女将のチャレンジ

Focus

「男女がいきいきと働いている企業」
三重県知事表彰受賞企業

男女で考える

男女共同参画



さて、問題です。

11月に行われた「男女共同参画フォーラム～みえの男女2006～」に参加した男性の参加率は?

答えは、P.1で探してみてください。



アンチ・マッチョ宣言を掲げる山田亮さん第2回

Essay

男性の生活自立

市町からこんにちは

ステッププランが策定されました!

熊野市

男女共同参画フォーラム ～みえの男女2006～

フレンテみえでは、県内各地の人々が一堂に会し、様々な分野で考え交流する場として、毎年「男女共同参画フォーラム」を開催しています。今年度は、「男女共同参画の視点で進めるまちづくり」をテーマに様々な分野で考えました。

2日間に渡り、11のワークショップ、講演会、鼎談のほか、パネル展や農山漁村女性起業のチャレンジショップも開催されるなど、メニューも盛りだくさん。来場者は、2日間で延べ800人余りで、男性参加者も約4割に及びました。

なかでも、参加者の方から大変好評をいただいた、第2日目の講演会と鼎談から抜粋して内容をご紹介します。

Topics

1 男性の“デリバリ隊”が登場!

男性講座受講生が自ら企画したイベントで、男女共同参画のメッセージを書いた容器にポップコーンを詰めて、来場者の皆さんに届けました。



2 フレンテみえ記者クラブで学生レポーターが活躍!

大学生がレポーターとなって、フォーラムの様子を取材し、速報を作成・配布しました。

*講演会は、演題「男女共同参画とまちづくり」として、藻谷浩介さんにお話いただきました。

講演講師



藻谷
浩介さん

日本政策投資銀行
地域企画部 参事役

NPO法人ComPus地域
経営支援ネットワーク
理事長

男女の違いなんかより圧倒的に個人の違いが大きい

人は、一人一人違う。男女の違いよりも個人個人の違いの方がずっと大きい。例えば、柔道でやわらちゃんに勝てる男はほとんどいない。男女の違いという前に、一人一人が自分の違いを活かしながら協力し合える社会を作ろう、というのが男女共同参画の本来の目的です。ですが、今日の私の話はこの原点を離れて、経済の話をする。「理念はわからんが、お金の計算は出来る」という人にも、男女共同参画の重要性をご理解いただくためです。

なぜ地域活性化に男女
共同参画が必要なのか

今の消費者は、自分の感性に合ったものしか買いません。ところが多くの企業は高齢の男性が経営している。品物を置いておけば売れた時代を懐かしむこの人たちを、消費者の感性を肌感覚で理解できる人たちと入れ替えなければ、売上は減るばかりです。早い話が、もっと女性が経営のイニシアチブをとるべきなのです。地域活性化の取組も同じです。お客さんは男女が混ざっている、というか多くの場合女性主導なので、男だけの取組は100%ダメ。本物の取組は必ず、中心的な幹部層が男女混成か女性主導になっています。

立ち上がる
「受け身」はやめて

でも実際には、多くの企業や団体の幹部には女性がいません。男性にしてみると、女性を最初から排除できれば権力争いや昇進レースのライバルが減る。一方で女性にも、受け身を装って責任を逃れようとする人が多いですね。実際に「女の敵は女」という現実があり、女がやって失敗したら、「あれは女だから」って、女から言われるわけです。本当は責任を持って、失敗して初めて鍛えられ、実力がつくというのに。この壁を打ち破るには、「失敗してもいい、やってやる!」と開き直って行動する女性が増えるしかありません。企業も、今の時代に生き残りたければ、そういう女性にチャンスを与えて、失敗もさせて育てるべきなのです。

国内で年々ものが 売れなくなっている 本当の理由は

ところで、日本経済には、男女共同参画を進めない限り打開できない大問題があります。好景気といいますが、元気なのは輸出企業だけで、国内ではモノの売上も観光の売上も減っています。トヨタ車ですら国内での販売台数は減っているのです。なぜでしょう。実は10年前から、新成人よりも60歳を超えるシニアの方が多くなって、働く人の総数が減り、個人所得の総額が落ちているのです。実数で言えば、日本に住んでいる20~59歳の方の総数は過去10年間に300万人も減りました。団塊世代が60歳を超えるこれからの10年間には、さらに700万人減ると予測されています。退職者は所得が減った分消費も減らすので、家も車も食品も売上を落とすのは当然です。実際に、日本の小売販売額は10年前から、住民税収は8年前から減る一方です。

少子化対策を打っても、今から生まれる赤ん坊が成人するのは20年以上先のことで、目前に迫った団塊世代の大量退職にはまったく間に合いません。移民導入も切り札にはなりません。日本にお住まいの外国人の方の増加は、過去10年間で60万人ですから、流入が今の10倍のペースにならなければ現役世代の減少は補えませんし、そうなれば関連する教育や福祉の負担もうなぎのぼりです。

国内市場の縮小を救う 唯一の方法は女性が働くこと

このような日本の危機、企業の危機に対して、まったく負担を増やさずに効果のある手が、一つだけ残っています。日本に1600万人以上もいる専業主婦が、一人でも多く社会に出て働くことです。2割が働くだけで、当面の現役世代減少は簡単にカバーできます。

夫がサービス残業をやめて帰って家事を分担し、その分妻が働きに出たほうが、トータルの家計収入は増え、住民税税収も増えます。専業主婦の多くは、買いたいものを買わずに我慢していますから、自分で稼いだお金を堂々と消費してもらえれば、モノももっと売れます。新たな教育費も福祉年金負担も増えないどころか、財政赤字も減ります。この理屈がわからずに、男のみを集めモノを作ることだけに集中している企業、彼らに依存した財政は、いわば自分で自分の首を締めているのです。

ところがこの話をすると必ず「女が働くと子どもが減る」という人が出てきます。では、子どもが多かった高度成長期以前の勤労者家庭では、女の人は家の中で座っていたのですか？ 自分の親を思い出してください。まったく逆で、共働きが普通でした。もっと子沢山の江戸時代のお百姓さんの場合は、子どもは子守に任せて夫婦で働き、夫も当然のように家事を分担していました。逆に男女分業を徹底していた上級武士だけは、しょっちゅうお家が断絶していたのです。

女性が働くほど出生率も上がる

実際に47都道府県を比較しますと、20~39歳の女性がパートでなくフルタイムで働いている比率が高いほど、出生率も高いのです。先進国を比較しても同じです。共働きの方が収入が安定し、保育所などの子育てサポートを受けやすいからです。逆に女性を専業主婦にして家に押し込め子育ての全責任を負わせると、ストレスで出産が減ります。

そもそも毎年生まれる子どもが大きく減ったのは、石油ショックからバブルまでの15年間で、専業主婦が増加した時期と重なります。だから最近新成人がどんどん減っているわけです。それ以降は毎年生まれる赤ん坊の実数はむしろ横ばいでして、男女雇用機会均等法が子どもを減らしたというのは誤解です。

経済面での男女共同参画は、縮む地域経済を活性化させ、出生率を増加させる、日本に最後に残された最高の手段なのです。神話でも、日本列島は男の神様が一人で作ったのではなく、イザナミとイザナギが二人で生んだことになっています。伊勢神宮の最高神も女神ですね。始まりから男女共同参画なのが日本です。今からでも遅くありません。このことに気づいた経営者の方々が、女性を職場に受け入れることで、地域は確実に変わります。

平成19年度の
フォーラム開催日は
11/9(金)・11/10(土)

経済の観点から、あらゆる場面に男女が参画する必要性とその効果についてお話いただきました。

あなたのまちでは、男女共同参画のまちづくりはどのように進んでいるのでしょうか？

テーマ

「みんなの目で 新しいまちの芽を！」

講演に引き続き、講師の藻谷さんを交えてコーディネーターの松井真理子さんのもと、鼎談を行いました。鼎談者の方のご発言から一言ご紹介いたします。

松井
真理子
さん

一人ひとりが個性を活かして生きていこうという今の時代に、まだ男女共同参画が難しいなんて言っている人がいる。もうそんなことを言っている時代ではないですよ。

男であっても何でもできなければ。意思決定をするだけでなく、雑用もお茶汲みも、“おもてなし”といったところも男がもっとやるべき。草履取りもできないのに太閤を気取るのはやめた方がいいです。

藻谷
浩介
さん

四日市大学総合政策学部教授
NPO法人市民社会研究所 代表理事
NPO法人四日市男女共同参画研究所 副理事長

佐藤
肇子
さん

女性が意思決定の場にもっと出て行ってほしいし、その人たちを支援できるような社会を作っていけないといけない。それから、市町村合併で今スタート地点に立っていますが、それぞれのまちが良さを出し合って水平展開していかないと。

前津市議会議員
高齢者の居場所づくり
や里山の維持活用等の
NPOで活動

Challenge チャレンジ

鳥羽・老舗旅館若女将のチャレンジ!

鼎談のなかで、藻谷先生から、三重県の事例としてご紹介いただいた江崎貴久さん。当日参加されていた江崎さんに会場から取組についてお話をしました。江崎さんの「女性も実権を握って活躍していきたい」との力強い言葉に勇気づけられた方も多いはず。

江崎さんは、鳥羽市の旅館「海月」の若女将で、環境・地域おこし・教育の観点で観光地である鳥羽市を舞台にエコツアーなどを企画・実施しています。日本エコツーリズム協会「このガイドさんに会いたい100人」にも選ばれ、観光業界では今注目の人。

フレンテみえでは、仲間と共に新しいまちづくりの芽を吹かせた江崎さんにお話をうかがい、企画されたエコツアーを体験してきました!

—江崎さんは若女将ということですが、エコツアーは自ら企画されたのですよね?

大学を卒業して数年企業に勤めたあと、家業の旅館を継ぎました。エコツアーは鳥羽にあるものを最大限に生かし観光を盛り立てたいと思い企画しました。これまでのエコツアーはNPOや行政が行って来ました。でもやっぱり経済効果がないと続いていかない。このツアーは同業の方皆で利用していただけるようにと、有限会社「オズ 海島遊民くらぶ」を設立しました。スタッフも驚くほど意欲的に関わってくれています。

—どんな内容のツアーなんですか?

鳥羽の豊かな自然のなかで素晴らしい体験をしていただくことによって、「もう一度行きたい」と思っていただけだと思います。豊かな自然と言いますが、私たち皆がその自然を守っていかないと。環境のことを考えてもらおうと、きれいな自然だけでなく漂着ゴミなど、ありのままの姿を見せることにしたんです。離島に暮らす人々の生活など、まだ知られていない部分を見ていただけたらと思っています。

お客様の希望にできるだけ沿い、コースを選択できるような改良を加えてきました。今年も修学旅行生の方にたくさんお越しいただいています。

—鳥羽市若女将の会「うめの^{つぼみ}蓄」会を設立されたとか。これはどのような会ですか?

真珠で成功を収めた御木本幸吉の妻「うめ」にちなみ名付けました。幸吉ばかり注目されがちですが、家業の経営に力を発揮したうめに光をあてたかったです。

メンバーは私のように家が旅館であったり、結婚を機に他地域から来られた若女将の6名。旅館間の連携をはかって情報共有し、お客様に提供するものをよりよくしていきたいんです。単独でやるのではなく、皆で力を合わせて鳥羽の観光力をアップしたいと思っています。

—鳥羽に行くのが楽しみになりました！
ありがとうございました。

それいけ！フレンテみえの エコツアー体験記

START

小学校の修学旅行生の皆さんと一緒に、早朝、まだ暗いうちに出発！船に乗って菅島へ。



島についたら早速釣り体験。初めて触る餌のエビを針につけるのに大騒ぎ！「貴久さん、釣れた！」の声があちこちからかかります。

江崎さんから、ビニールをくらげと間違えて食べたカメがたくさん死んでしまっている、というお話もありました。

釣りを終え、その島にある朝食会場の旅館へ。道中、海から打ち上げられたゴミの山にびっくり。



ツアーから帰ったら、昼食までの時間に休む間もなくメンバーとミーティング。改善方法を試みた結果報告とさらなる改善策を話し合っているとのこと。



昼食は釣った魚の煮付です。魚嫌いな子どもも多いなか、魚の上手な食べ方を絵で説明。

自然と触れ合い、ゴミの問題も
しっかり考えたツアーでした！

Focus

「男女がいきいきと働いている企業」 三重県知事表彰受賞企業

三重県では、平成14年度より、職場における男女共同参画の推進を目的に、男女の雇用機会均等や女性の能力活用、仕事と家庭の両立支援、次世代育成支援などに積極的に取り組む企業を「男女がいきいきと働いている企業」として知事表彰しています。平成18年度受賞企業が決定し、11/11のフォーラムで授賞式が行われました。

☆ベストプラクティス賞

○マックスバリュ中部株式会社（松阪市）

- ・畜産部門に女性を起用
- ・男性も育児休業を取得
- ・選択できる働き方

○サイバー・ネット・コミュニケーションズ株式会社（四日市市）

- ・5人の管理職のうち3人が女性
- ・柔軟な働き方
- ・フラットな関係作り

○株式会社第三銀行（松阪市）

- ・ポジティブアクションの推進
- ・女性を登用するための数値目標を設定
- ・働く環境の整備

☆選考委員会奨励賞

○トリックス株式会社（津市）

- ・女性の活用
- ・従来の体制の改善をめざす

○株式会社アソシエード第一（四日市市）

- ・社員満足度を高めるためのプロジェクト
- ・社内の施設を地域に開放



エッセイ Essay

「アンチ・マッチョ宣言」を掲げる“スーパー主夫”として大活躍の山田亮さんの第1回エッセイ「父親の子育て」に続く第2回です。エッセイ第1回は「今度パパから子どもに手紙を書いてもらいます」「子どもだけでなく夫婦のコミュニケーションにも役立ちました」など大変好評をいただきました。

今、男性向けの家事実践講座が人気です。とくに料理教室はどこも盛況で、応募者多数のためにキャンセル待ちをお願いすることもあります。実習講座ばかりでなく、「男の生活自立」についての講演も、ここ数年でずいぶん男性の参加者が目立ってきました。とくに定年退職前後年代の方の参加が目立っています。参加理由を伺ってみると「退職後、時間があるから」という人から「もしもの時に備えて」「必要に迫られて」など様々です。なにはともあれ、「男子厨房に入らず」「家事は妻任せ」「粗大ゴミ」からは大きな変化です。できれば、退職に関わらず、男性も生活自立という視点を持ち、早くから家事に積極的に関わって欲しいと願っています。

僕は、男性の生活自立について、講演でよく「『人』字型人間関係から『M』字型人間関係へ」という話をします。お互いがもたれ掛かる「人」字型ではなく、それぞれが自分の収入を得て自分の身のまわりのコト（自事）をこなしてI字型に立つ者同士が、手を取り合って「M」字型を作るという「共働き&共家事」モデルです。

子育てのシンドサを共有できる相手がいることで、連帯感や信頼感はより深まると思います。逆に、男性が積極的に家事をしていても、「僕の分はもう終わらせたから（あとは知らない）」「今日は君の当番だけど、ご飯まだ？」という内容では、意味が無いと思います。

現実的には、I字型に両立できる人は、現在のところ限られています。ですが、目指すところとして「まっすぐ立とう」という意識があるのと無いのとでは随分違ってくると思います。例えば、「本来なら自分もせなアカン」と思っていれば、自分が帰ってくる前に晩ご飯が用意できているというのが、いかに有り難いことかが実感できるはずですよ。「ありがとう」がスッと自然に言えるかもしれません。そういう気持ちになれる人達は、きっと周囲も自然に「I」字型両立を支えてくれます。そのために「M」字でつながったもう片方の手は開かれているのです。



男性の生活自立



最小限の収入と自事があれば、あえて家事でなくても良いのですが、一緒に暮らす人と、より楽しい生活をしたいのなら、やはり男性も家事をした方が良いでしょう。とくに子育て時期は、働き盛りの時期と重なり、なかなか家事まで手が回らないかもしれません。ですが、こういう時こそ「こりゃ子育てしながらはたいへんやナァ」と家事のシンドサ、

執筆者紹介



山田 亮さん

1967年香川県生まれ。98年、大学助手だった妻と結婚。主夫をしながら佛教大学博士過程に進学。01年、長女が誕生。HP上で綴った家事・育児記録が新聞社の目に止まりスーパー主夫として連載開始。現在、NPO法人日本洗濯ソムリエ協会理事長、社会福祉士、大学や専門学校で社会福祉学の非常勤講師を務めるほか、執筆、講演活動も精力的に行っている。

熊野市の男女共同参画推進状況は？

平成18年11月に、平成19年度から5年間の「熊野市男女共同参画ステッププラン(第1次基本計画)」を策定しました。「一人ひとりを認め合い、男女がともに歩む社会づくり」を基本理念とし、様々な施策を掲げています。策定にあたっては、市民アンケートの実施や熊野市男女共同参画プラン市民懇話会(委員10名)の開催により、市民の意見を十分取り入れるよう心がけました。



熊野市男女共同参画プラン市民懇話会の様子

今後の展望

基本計画に沿った取組を積極的に行い、市民の男女共同参画に関する理解を深めたいと考えています。また、市の審議会・委員会等への女性の登用率は、平成23年度までに30%を目標としています。

PR

平成19年3月3日(土)には、熊野市保健福祉センターにおいて、中央大学教授の広岡守穂さんによる男女共同参画講演会を行います。この事業は(財)三重県文化振興事業団から助成を受け「熊野市男女共同参画ステッププラン(第1次基本計画)」策定記念事業として実施します。

レビュー

11.25-26

共催事業 第4回三重映画フェスティバル2006

2日間にわたって映画上映とゲストトークを開催し、400名を越える方にお越し頂きました。三重県出身の羽田澄子監督が構想から48年の歳月をかけて完成させた映画『絵巻「山中常盤」～牛若丸と常盤御前・母と子の物語～』を上演後、羽田監督に制作のエピソードや絵巻物についてお話をいただきました。

11.25

男性講座専門コース「イベントを創ろう」

講座最終回のこの日は、イベントの企画からフォーラムでの開催当日までを振り返り、感じた事、反省点、改善点などについて話し合いました。「調理や育児についてもっと基本から学んで行きたい」「これからも男女共同参画のメッセージを発信していく活動を続けて行きたい」などの意見が交わされました。



12.2

これから結婚を考える若者のための講座

「結婚!?～彼と彼女のいい関係～」

若者を対象に「結婚」をテーマにした講座を開催。大学生を中心に定員を上回る応募をいただき、大変人気の高い講座となりました。講師には三重大学人文学部助教授の石坂督規とくのりさんを迎え、結婚の理想と現実についてのお話を伺いました。後半はグループに分かれ、「結婚相手に求めるものは?」「理想の結婚生活とは?」などテーマ別に活発な意見が交わされました。



者フェミニストカウンセラー加藤伊都子さんをお招きし、女性同士の語り合い活動「CR」についてファシリテーターの役割、テーマ設定の仕方、運営ノウハウを実習を通して具体的に学びました。

プレビュー

2.24

これから結婚を考えるための講座

「結婚!?～彼と彼女のいい関係～」PART2

多数のご応募で大好評のうちに終了した講座のPART2を開催します。講師には第1回でも好評の三重大学人文学部助教授石坂督規先生をお迎えし、前回よりも少しステップアップした内容で、結婚の中で遭遇する場面について一緒に考えます。

12.2,8,16 1.13

フレンテみえエンパワーメント・スクール

CRグループ運営コース

～体験で学ぶファシリテート～

有料講座にもかかわらず定員を上回る応募をいただきました。講師にはCR実践の第一人

場 所：フレンテみえ3階セミナー室C
定 員：20～30歳代くらいの男女30人程度
参加費：無料
申 込：フレンテみえ(059-233-1130)まで

フレンテみえ講座参加者の声

男性講座専門コース「イベントを創ろう」からお届けします。

この講座は、男女共同参画フォーラムのワークショップの企画をしながら、男女共同参画の視点を持って活躍する男性を育成する講座です。6～11月までの全6回を約15名が受講されました。

フレンテみえの講座の受講は初めて、というTさん（四日市市・30歳代）にお聞きしました。



↑本番の料理体験に備えたりハーサルの一コマ。包丁を持つ手が危なっかしい。「これを毎日やっている人、大変な…」とポツリ。

◆男性講座「イベントを創ろう」を受講されていかがでしたか？

もともと子ども好きなので、家でも子育てはやっていましたが、料理は全くやっていませんでした。しかし、講座を通じ、毎日料理する大変さが分かったということは大きな収穫です。そして、今までは意識していなかったけれど、こういったことが「男女共同参画」なんだということが受講を通して少しずつ認識できました。私は「社会貢献できる何かができれば」と思い受講したわけですが、難しく言う必要はないけれど、これからもメッセージを発信していければと思います。

◆フォーラムでワークショップ「ちょいワルおやじの生活工房～作って食べるお話会 育児付きだよ！～」を実施していかがでしたか？

当日、参加者の笑顔と受講生の皆さんのいきいきとした姿を見て涙が出そうになったのはどうしてなのか自分でもよくわかりません。でも、やってきてよかったと思ったのは確かです。私の中では100点以上の大大大満足の出来でしたから。これからも、社会や家庭の中でできることから始める（ゴミを一つ捨てる、皿洗いをするといったちよつとしたこと、相手を認めること）という姿勢でやっていきたいと思っています。

講座終了後、グループを作り今後も活動していくことになりました。ちょいワルおやじたちの挑戦はまだまだはじまったばかり。これからどんなメッセージを発信していくのが注目です。

Book & Video



『ハッピーキャリアのつくりかた』

編著 金澤悦子
出版社 ダイアモンド社
発行 2006年10月

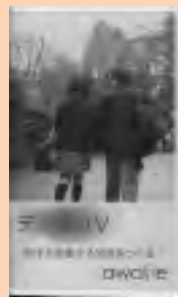
女性のキャリア支援を続けている著者、「ウーマンtype」創刊編集長が、これまで出会った多くの働く女性から得た“仕事も人生ももっとハッピーに生きるコツ”。



『新米パパは育児さん～仕事と育児の両立をめざして～』

共著 石井憲雄
出版社 産経新聞出版
発行 2006年4月

山形県庁職員の前著者が、8ヵ月にわたる育児休業をとって子育てに取り組んだ奮闘記。育児中のだまどいと奮闘ぶりをユーモラスな文章で綴る。



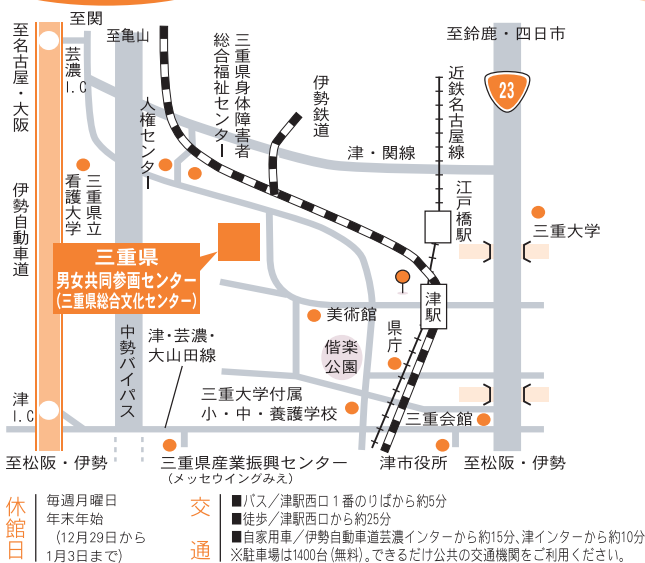
『デートDV～相手を尊重する関係をつくる～』

企画・製作・著作 アウエイ
上映時間 30分
制作年 2006年10月

DV（ドメスティック・バイオレンス）は大人だけではなく、若者の間でも広おきている。「デートDVへの」理解を通し、相手を尊重する関係をつくる大切さを学ぶ。

情報コーナーで紹介しています。

三重県男女共同参画センター までのご案内



休館日
年末年始
(12月29日から
1月3日まで)

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター

三重県男女共同参画センター フレンテみえ

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL : 059-233-1130 FAX : 059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>
E-mail : frente@center-mie.or.jp

フレンテみえからのお知らせ

「ジェフリーふえすた2007」 ジェフリーすずか セカンドステージへ 男女共同参画社会の実現をめざして

樋口恵子さんによる基調講演「人生100年すべての人に居場所と番」や、パネルディスカッション、展示やビデオ上映などを行います。

●日程：平成19年2月10日(土) 鈴鹿市文化会館けやきホール
11日(日) 鈴鹿市男女共同参画センター
「ジェフリーすずか」

●問合先：鈴鹿市男女共同参画センター ジェフリーすずか
TEL 059-381-3113

こちらのイベントにフレンテみえが啓発パネルの展示と出前を行います。会場でお待ちしております。

イベントの詳細はフレンテみえホームページ「県内イベント情報」でご覧いただけますので、ぜひ活用ください!

ホームページアドレス <http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>